

緊縛モデルの素顔

(その二)

辻 村 隆

——川辺砂登子——

私と編集長の箕田氏は大阪ミナミのアルサロスで、ジャズと騒音に包まれ乍ら疲れた体を休めていた。丁度その日は、朝から伊吹さんの撮影で相当に手のこんだものをして六時過ぎまでかゝり、やっと終って彼女を天王寺までタクシーで送った後だったのだ。

別段指名する程親しい娘のおるアルサロスでもなし、ふと通りがかりに這入っただけで、係りの娘も手持無沙汰にビールの酌を強いる程度だった。

私達のひそく話も自然耳に入るのか、その係番の娘は何気なく耳をそばだてゝいる様子だった。

伊吹さんに流腸シリーズを敢行した日だっただけに、ともすれば二人の話は緊縛や流腸の話へと弾み、第三者にとってはそれが、甚だ異様にも聞えるアブの世界の内輪話だったに違いない。

「変なお話許りして一体何なの貴方達？ 二人だけでお話なさらないで、私にも聞かせて頂戴よ——」

その娘に横合から話を割られて、思わずハッ和我に返った。夢中になって、アヌスがどうの、エネマシリンジでどうのと、しらずしらず声高になってゐる事に気付いたからだ。

「なーにヌードの話さ。よかったら君に一度頼んでもいいよ。どう、やってくれるかい」私は冗談まじりでその娘に云って、改めて

彼女の顔をまじまじと見つめたが、フト彼女が誰かに似ている事に気付いた。思いは同じなのか、箕田氏が思い出した様に

「この娘、坂口さんに似てると思わないかい、体付と云い、顔の造作と云いそっくりだよ。

坂口さんより少々眼に陰があつて断髪にしているけど、彼女よりは綺麗だね。どうだい一度試しに当って見ようか」

そうして二人で口説き落したのが、外ならぬ川辺砂登子さんである。

アルサロス娘の彼女は仲々に打算的だった。私達の話をあれこれきいた挙句、

「——で、モデル料って、一体どれ程戴けるの？」と、顔も赤らめずに正面から訊ねた。箕田氏がこれこれだと説明すると、

「へえ、案外安いのねえ。でもいいわ、近頃デフレと秋頃ですっかり暇だし、昼なら身体もあいてるから、思いきってやって見ようかしら。だけど裸じゃ、もう随分、寒いでしょうね。それに貴方達の他にも、いろんな人が来るんでしょう？ 男の方と一緒に歩いていて、若し、知ってる人にもあった時困るから、矢ッ張りよそうかしら——」

本気か冗談か、仲々乗りそうに乗ってこない。それを場所は私の家の二階でやる事にきめ、モデル料も少しはり込む事にして、単なるヌードと云う約束で、どうやら成立まで漕ぎつけた。少し眼に陰はあるがピッチリ引き緊った肉体と、鼻筋の通った彫の深い顔立ちや程よく似合うヘップバーン・スタイルの近代的な品のよさが気に入ったからである。多少私達のお道楽めいた気分でもないではなかったが、うまく彼女がものになり、我々のよき協力者となってくれる事を秘かに希ってのもいたのである。年をきくと二十一才だと本人は云うが、しっかりした口ぶりや、どっしりとした肉体の成熟ぶりから見て、或いはもう二つ三つとっているのではなからうか——。

本名と住所を訊ねたら見事に蹴られた。それを云うのだったら止しますと云う腰の強さ

で、若しやの後難を懼れる気持があつての事かも知れない。だから川辺砂登子は勿論、私と箕田氏との合作名で、アルサロスではひとみと呼ばれていた。

兎に角、十一月の五日の朝十時、彼女の希望した郊外電車のターミナルで逢う約束をして別れたのだった。

或いはあゝ云つたものゝ、一時の気まぐれで、ひよっとすると来ないのではなからうかとの半信半疑の杞憂は見事に外れて約束の十時きっかり、赤と青のチエックのスカートも颯爽たるスタイルで現われたのでやれやれの思いだった。大きな金の輪のイヤリングがきらきら光っているのが印象的だった。彼女は逢うなり開口一番、

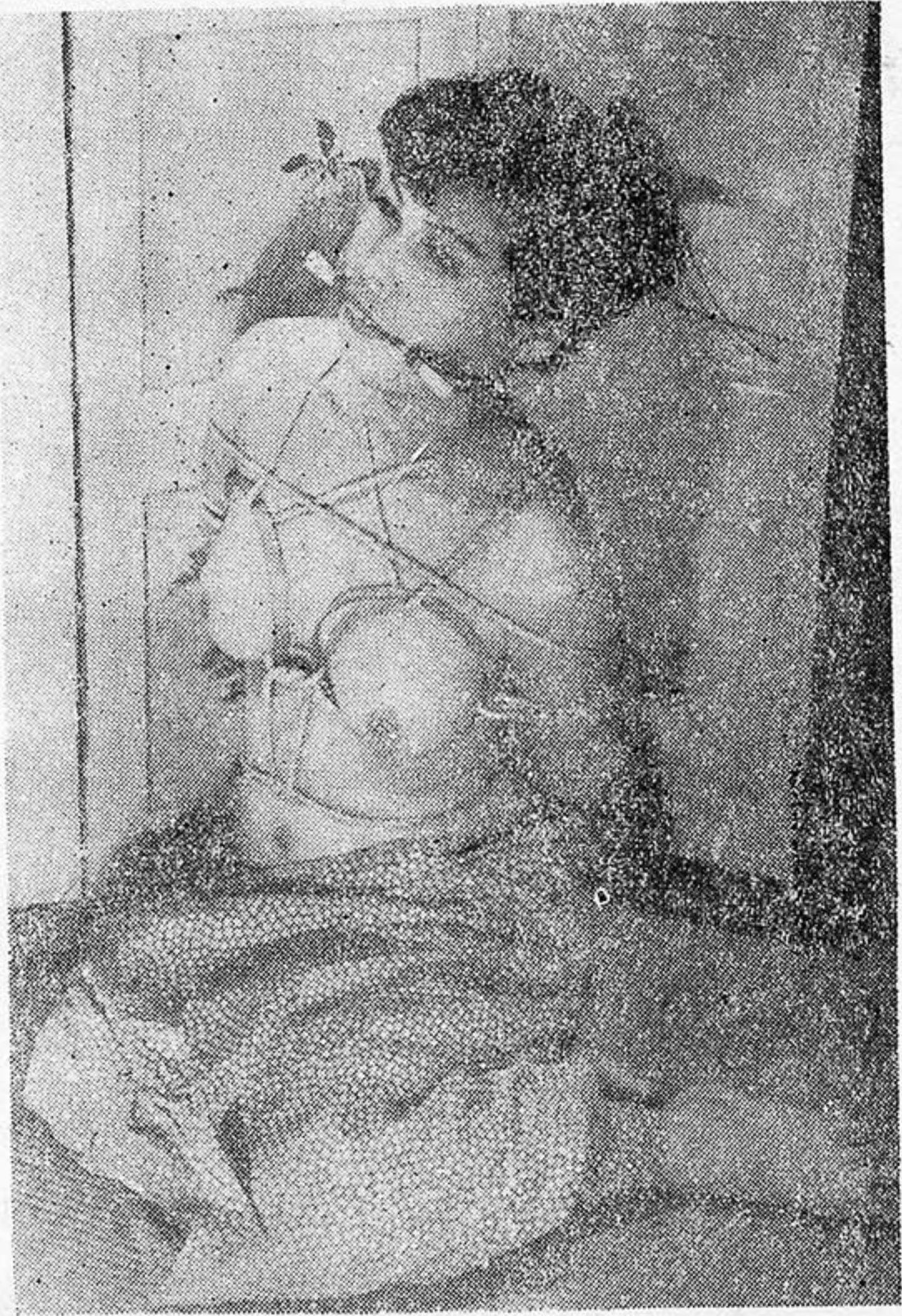
「私ね、貴方達の事、全然知らないで信用してるんだけど、裸になってから変なことしないでしようね。それからモデル料は裸になった時戴けるわね」と釘をさす様に駄目を押した。チャッカリしたものだ。だが、こう

いった表面、強がりの娘に案外、情の深いのがあるものだ。箕田氏は内ポケットから白い角封筒を出して彼女の口を封じてしまった。彼女の変なことゝ云うのは、恐らくはセックスの面を意味しているのであろうが、若し、緊縛や浣腸や責めも変なことこの範疇に入るとなると、ちょっと厄介であるが、先ず先ず半



白布の猿ぐつわで見上げる川辺砂登子嬢

結髪用の部分品をくつわにする川辺砂登子嬢



メーキ
ヤップ
は流石
アルサ
ロ仕込
みで美
事なも
ので、
カメラ
マンの
塚本君
が差出
した附
眉毛も
手際よ
く自分
でつけ

えて入れた電気ストープが、南向きのガラス窓からさし込む陽で反ってムーンとしたのぼせる程の温い雰囲気を作って、私の差出した浴衣を素肌に纏った彼女は、上気した様な顔付きでもじもと立ちすくんでいた。

どういふふう私達の意図を説明すればよからうかと、私は度胸をきめて書架の奇ク最近号数冊をとり出し、グラビヤをめくって黙って彼女に示して見せた。

「僕等を信じてくれるだろう。貴女のいう変な事は誓ってしないけど、これが僕達の所謂ヌードなんだ。判ってくれるかな」

彼女は顔を赤らめそれをにらむ様にして見つめていたが、そんなことなら構わないわ、と云った風で「いゝわ。だけど」と一言云って口をつぐんでしまった。

私はまるで緊縛の初心者のような気持で、彼女の逡巡に対して一寸、魅力を感じた。始めからの強度の緊縛は、相手を怖がらせるから、なるべく簡単なもので部分的な責めを行った。

鼻責め、足枷、乳責め——偉大なるオッパイにクリップを挟んだ時の、彼女のウーンと云った表情は実によかった(本誌二月号)——鼻責めには結髪用の部分品に鎖を通して、

ば成功の今、彼女の云うがまゝになって、私達は折柄、入ってきた急行の席におさまった。

私が既に妻子があり、しかも家内も今日の撮影を知ってるらしい素振りに、彼女は稍々安心したらしかったが、何処か未だ、心に鎧をきていて、敵地に乗り込んだ様なぎこちなさが目に見えず纏わりついている様だった。

て「O・S・Kで少し踊ったことあるのよ。わけがあつて二ヶ月許りで止したけど……」と誰にもなくつぶやいていた。

急造の控え間、四帖半の襖の向うで裸になって現われたが、乳房の盛り上り、腰の締まり工合、癍痕一つない白い肌、誠にいゝ体である。

十一月初旬とは云え、寒いと気の毒だと考

それを彼女の小さな鼻に嵌めたが、この時は恐ろしくていやな怒った顔をした。(本誌一月号に出ているが怒った表情がまざまざ表われている)

一人用蚊張を引張り出して、荷物にした幻想的ポーズ(本誌二月号)は、犇々と縛った緊縛と又異ったいゝ味を出した。

眼の凄艶さが現われているのは、私が背後から皮手袋で、彼女のオッパイをグツと掴んだものが最もよく出ていた。(一月号手袋)

次第に彼女も緊縛とカメラの雰囲気馴れて来たのか、次々と私の指図通り動いてくれて、油が乗って来た。強盗に襲われるシーンを連続的に撮ったが、最後に、これは恐らく非公開ものであるが、私の扮する強盗の前でタンスの上部の横環に縛り上げられた彼女が事実諦めていたのでもあろうか、片足を高く吊り上げられた儘、余情を溢えて観念したポーズは、今迄にない素晴らしい切実感を持って印画として仕上ったのであるが、諸氏に公開出来ぬのが残念である。

浣腸だけは流石に拒否した。(今から考えると最初からそれを希んだ私達が間違っていたのだが……。相当馴れた者でも浣腸は厭がるからだ)私は先日の伊吹さんに易々として

行えた為、その時になれば何とかなるだろうと、イチヂク浣腸やらガラス浣腸器、果てはイルリガートルまで持出して準備を終り、私自身白衣に額帯鏡をかけた医師に扮した時、先刻から異様げに眺めていた彼女は、浣腸だけは、どうしてもいや、と駄々をこね始めたので慌てた。

色々説明したがどうしても納得しない。(子供の頃のお医者ごっこか、又はギネの寝台を想起するのだろうか――)

「じゃあ、よそう。その代り残ったフィルム八枚許りを縛ったポーズでとるからね――」
私は浣る彼女をシュミーズの上から後手に縛り上げて、塚本君に素早く眼で合図した。

彼の敷いた布団の上へつれて行って押し倒すと、あっと言う間もない浣腸ポーズで、早いところ、あれこれと五六枚撮り終った。余りの早業に、彼女はもう仕方がないといった眼つきで、言われる通りのポーズをつけたのは、流石にモデル志願の娘だけはあった。

縄を解いても放心した様に布団に座った儘だったので、そこを又一枚(一月号の口絵、浣腸)

そんな訳で、浣腸のポーズはシュミーズをつけた半裸のものに終ってしまった。

「もういゝんでしよう。私、お店に遅れますわ」

浴衣を羽織ったまゝで中腰になって、彼女は切長な瞳で箕田氏の顔を見上げた。そんな何気ない身体のかなしのときに思わぬよい線が出るので、私は一寸見とれていた。

「なんだ、もう里心が起きたのかい? それとも彼氏と逢う約束でもあるの?」

箕田氏がからかうように云うと、

「彼氏なんてありませんわ、でも、もう終ったんだったら、早く帰して頂きたいの」
入れ替えないと、もうカメラの中にフィルムがないことを見越しているらしい彼女の口ぶりである。

「まあ、そう急がなくなっただっていゝだろう、僕が車で店まで送ってあげるじゃないか」

君子は豹変する、というが、この箕田氏の言葉で彼女も思い直した体で、バタフライ一枚で、廊下の手摺に、雨戸をバックに、命ぜられたポーズをとった。これが、彼女が「痛い、痛い」と悲鳴を上げて許しを乞うた折檻の序曲であろうとは、神ならぬ身の彼女は知らなかっただろう。

数日後、会社からの帰途、アルサロスに立寄って、ひとみを指名すると、和服姿で髪に

リボンをつけて、あでやかな微笑で迎えてくれた。

「この間はどうかだった？」

と、いさゝか不安な気持で尋ねたが、あの日あれ程、大騒ぎをして泣き喚いたのに、そんなことはケロリと忘れた顔つきで「私のお写真、いつ雑誌に出るの、出たら一冊頂戴ね」と、しやあしやあしているのには、安心もしたが驚きもした。よし、今度は凄いのを撮ってやろうと心にきめて、彼女の和服姿をもう一度見直したのであった。

——伊吹真佐子——

この処毎号誌上を賑わしている彼女の事については、余りにも書きたい事が多すぎて、扱どの辺りから話を始めてよいか迷うくらいである。兎に角ピックアップして見ると、現住所は奈良県磯城郡S町で材木の集散地であると云えば大体見当がつく事と思われる。

本名は○原○代（註、伊吹嬢の希望もあって誌上では特に伏字しました。編集部）

故郷は長野県諏訪とかで、唯今のところ、お母さんと妹さんと三人でさゝやかな人形造りの手芸を営んでいる。週に三回、わざわざ洋裁の勉強に大阪の梅田の近くにあるK洋裁

学園に出掛ける。金銭的にはさして不自由もないらしく、お友達と映画や買物だと云っては、度々大阪へ出てくるが、これが実にはカラクリで、その大半は、編集部の依頼で出頭する口実に外ならないのである。

始めて箕田氏に紹介された時、彼女は既に全裸になって縛られていた処だった。可愛いゝえくぼの浮く頬を恥かしげに歪めて縛られた不自由な姿勢で私に会釈し、心持ち膝を合せて体を斜めにずらせた。私の来るのが遅かったからであるが、突然現われた身も知らぬ男に、彼女はさぞかし驚怖を感じた事であろう。

その時の第一印象は、彼女の肉体がすべて大作りで、ボリウムもあり顔立ちもよく、何処といった缺点もない理想的なモデルであるにも拘わらず、何故か一口に云えばドタリとした鈍重さにマゾ的要素を感じた。

余り都会的に洗練されていない肉体、と云っても分り難いかも知れないが、さして運動もせず、唯食べて眠ってのんびりと大きく云ったと云った、如何にも健康的な鈍重さが、そこはかとなく彼女の肉体から汲取れるのであって、謂わばキリリと引緊っ

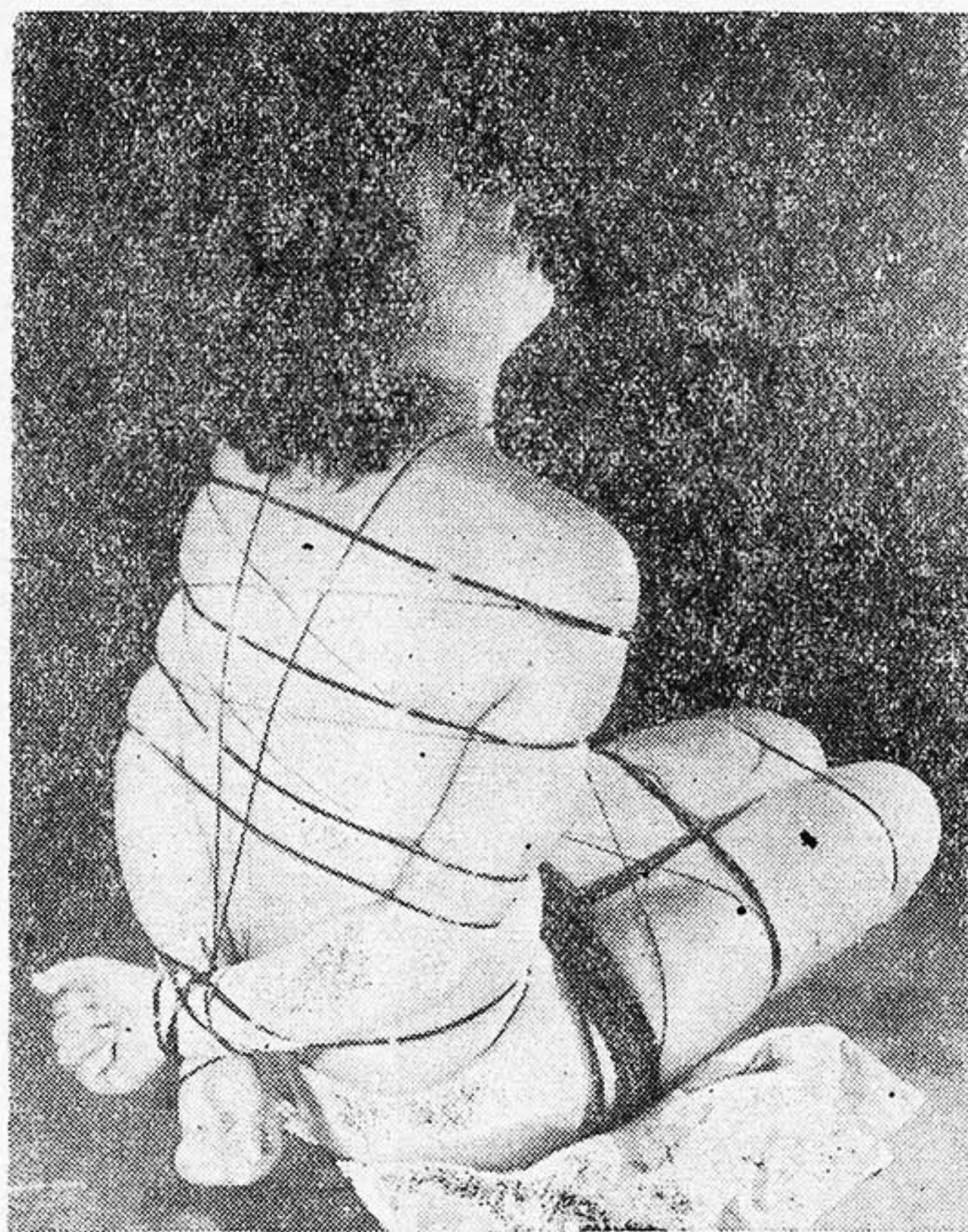


足首が痛い痛い悲鳴を上げる川辺砂登子嬢

たピチピチした肉体のセンスとは凡そ反対な感じであった。

川端さんは牝鹿を思わせたが、伊吹さんからは甚だ失礼だが牝豚を感じたのである。

この牝豚の感じは、彼女が磨かれざる宝石なるが故であって、時と共に私はこの第一印象を訂正せざるを得なくなったが、それについて追々と述べよう。



ビニールの紐で全身を縛られた伊吹真佐子嬢

扱、その時の日程は、梯子を使用しての責めを構想していたので、躊躇せずそれを行うことにした。アイデアにあった、梯子に蛇が絡む様に、脚から頭まで縄をなう式でやるつもりだったが、ドッコイ絵ではなっても、実際には到底出来得なかった。大人しい伊吹さんは云うが儘になってはくれたが、遂には汗をびっしょりかいて何てひどい事をする人だろうと云いたげな

眼付で私を見た。上から梯子を吊して、これにはりつけに縛ったのは出来たが、ヌーポータ的なあっけらかんとした表情と、ドタリとした重たげな体の感じで、さっぱり意図する構図にはならない。クローズアップでもやろうと、化粧する術すら知らぬ彼女に、私と塚本君と二人がかりで

画墨や紅をつけたが、これが又失敗で、縄の四十八手のクローズアップの出来上った写真を見てゲッソリした。まるで女レスラーを縛った見たいで、堂々と胸をはっていて、色も艶もあったものじゃない。

彼女の取柄は全然無抵抗である事だ。私のなすがまゝ云うがまゝに、相当強烈な逆吊りやアクロバチックな緊縛にも、よくよく肌の肉が縄に挟まったとか、手が捻れたと云う様な時以外は痛いというようなことは、ついそ言ったことがなく黙々とやってくれる。時々想い出した様にニヤリとして私達を交互に見つめるだけだった。それでいて彼女は、そうした強烈な縛りであればあるだけ、殆んど恍惚とした表情、状態にあった。潜在的マゾでもあろうか、強烈なものになればなる程、それに比例して、そういった傾向が強いようであった。

「今日は何時にお友達と待合せる約束なの——」と、来れば必ず云うこれも彼女の口癖だった。その癖、今迄一度たりとも、待合せ時間に間に合う様帰ったことはなかった。私達に興がのれば易々として何時までも続行させ、振り切って帰った事は殆んどないと云ってよい。

「彼女マゾじゃなからうか——」と、

私達は屢々、彼女の性癖について論議するのである。連絡すれば雨が降ろうが風が吹こうが必ず来る。そして犇々と縛られ、数時間に亘って私達の構成通りに動いて、縄跡のどれぬ手首をさすり、首筋の縄目の跡も気にかげず、白いブラウスに黒のスカートの地味な服装で、ニヤリと笑って黙った儘頭を下げると、々と帰って行く——。

アンデリケートな性質が、ものにこだわらぬ楽天的な気持と相俟って、些かお人好しにも見える程の童女振りである。

春日ルミ嬢の登場と共に、春日、伊吹二嬢名コンビ写真の撮影で彼女は益々重要な存在となって多忙らしかった。女同志で撮ったものは、そこでも彼女は屢々不自然なポーズを強要され乍ら、ときとしてニヤリと笑ったものが数葉瞥見されるのである。

悪く云えば図太く、よく云

えば天衣無縫のたちが、女の羞恥心をも時としては忘却させるのか、女レスラーもどきに春日嬢に押しつぶされ、馬乗りになって虐められ、未発表のものに、砂のついた春日嬢の足を舐めらされている様なひどいのもあったが、それでいて案外、彼女は平気らしいのである。

女の緻密さで、春日嬢の縛り方は、度々ポーズを変えると云うやり方でなく、一つの緊縛を念入りにして、自分の夢を実現させようと、異常な迄の緊縛を創意工夫しているが、伊吹さんを息も切なくなる程にひしひしと海老責めに縛っておいて、彼女の頭に自分の股を挟んで馬乗りになり、その儘のポーズでコンパクトを出して化粧を仕直すと云った事は如何にも春日嬢らしいサチスチツクな一面がよく現われていると思った。

そんな本格的な責めに近い場合でも伊吹さんは、フーン、フーンと肩で喘ぎ乍らも、もう止めてくれとは云わなかった。

去年の六月頃、私はKK通信を通じての友人のR氏が自家用車を所有しているのをいゝ機会に、一日、彼女と共に箕田氏、塚本君を加えてR氏の運転する車で一行五人、磐船に向って野外縛りの撮影を敢行した事があった。

既に初夏とはいえ、山峡の水は未だ冷たかったが、小瀑布の下で、或いは溪流に添って、又奇岩の流れの激みに水を入れての撮影は、一応成功したと



彼女は縛られたまゝ入ってきた私の方をふりむいた（伊吹真佐子嬢）

云ってもよかった。

R氏も御自慢のミノルタレフを御持参に及んで、この撮影に加わり、構成の邪魔にならぬ様控え目に、二本程フィルムに納めた様子だった。

車中で私と並んだ彼女が、何気なくR氏の事を聞いたのに、私は正直に答えてやったのが、彼女の人生の一転機になろうとは、まさかその時予測もなかった。

これが所謂一眼惚れと云う奴だろうか、伊吹さんはR氏にどうやら恋をしたらしいのである。(野外撮影行についての詳細は昨年の九月号に発表済のことゆえこゝで省略する)

あれ以来、彼女は逢う度毎に服装が華美になり、化粧も急にうまくなって、最新流行の透明化粧を使って、美しくピチピチとして来だした。

恋をするところも女は変わるものか——。私達は始め、彼女のその急変ぶりに驚かされたが、R氏と逢った一タ、四通程の彼女から出した平凡向ミーチャン的ラブレターを拝見するに及んで、さこそとうなずいたのである。

「これで弱っているんですよ。僕は唯君に頼まれて自動車を走らせただけで、撮影自体には好奇心もあったけど、別段彼女になんと云

う事もなし、僕からチョッカイ出した覚えは絶対ないんだ。ところがこれを女房が読んじやってうるさい事になりにつけりなんだ。何とかしてくれよ」と云うR氏の話——。

彼が恋愛結婚一年そこそこの新婚ホヤホヤであっただけに、これは所詮高嶺の花のほかない彼女の片想いであつたろう。返事は一度も出さないそうだが、彼女の文面から察すると、彼女は二度程自分の指定した時間の待合せに待ち呆けをくっているらしい。

いじらしい彼女の片想いも所詮、美貌の新婚と、新婚の夢さめやらぬR氏にとっては、甚だ迷惑であつたに違いない。

私はやむなく伊吹さんに婉曲にその旨を記めた手紙を出しておいた。

それかあらぬか、折返し彼女から、暫くは洋裁に専心するとの短かい便りが届いたとき、三カ月許り彼女を撮る機会に恵まれなかった。「来年の二月辺り、ひよっとすると結婚するかも知れません。それまで少し体があきますから、もし撮影なさるのでしたら、いつでも参ります。云々……」

この便りをうけた箕田氏は、早速彼女に連絡して、当時読者より希望の多かった浣腸シリーズを春日嬢相手に実施するよう企画し

た。

箕田氏からその連絡を受けとった時、彼女が失恋の痛手から脱したらしい様子に、私は内心ホッとした。

そして十月末の、丁度アルサロスで川辺砂登子さんに逢った日の事だったが、その日の伊吹さんのスタイルは、暫く見ない内に素晴らしく成長して、髪はヘップバーンヘアにズバリと短かくして耳許で内巻きにし、ウル地の洒落たデザインのワンピースを形よく着こなして、濃い目の透明化粧で颯爽と現われた時には、これが嘗って牝豚だと心秘かに思ったあの伊吹さんだろうか、思わず、瞠目する程の変貌振りだった。

鼻輪や木刀で責めた、一連の着物シリーズによるクローズアップや浣腸はこの時に撮ったものである。

読者の方も、以前の彼女の写真と、本誌二月号より掲載されたものとを比較して眺められたならば、その変貌振りに成程とうなずかれるに違いあるまい。しかも彼女は表面的な変貌だけでなく、内面の性格にも変調を来していた。以前のヌーボー的な感覚は影を潜めハキハキした態度なり、潑刺とした動作によってそれが端的に現われていたのである。

すべてを肯定するが故に、或いはマゾかとも思っていた彼女の性癖が、こうした変調によって、あきらかにマゾ性を帯びている事も露呈した感があった。

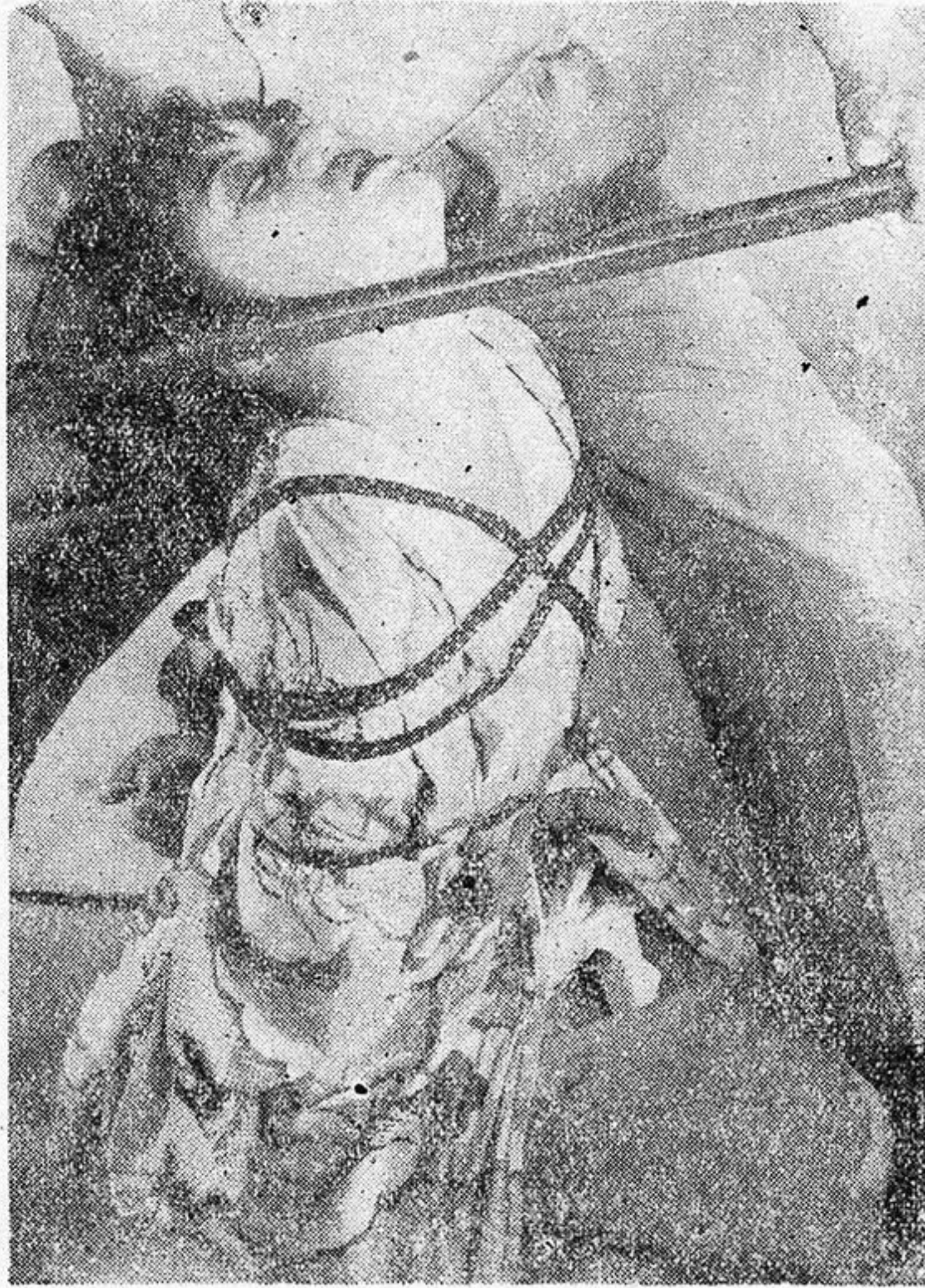
事実、形だけの浣腸ではなく、注入器やエネマシリンジをアノヌスに実際に挿入しても平然としていたし、月経帯のストリップを自から手で剥がしていった。

私達の指導次第で、彼女はアノヌスとしても導入して行けるだろう。

この日は私の家の二階で行ったのであるが、彼女はまるでそれを意に介せぬ如く、附眉毛の濃化粧に、バタフライ一つの全裸の上から長襦袢をひっかけて、階下のトイレに行こうとしたので、私は驚いて慌て止めた。妻は知っていても、同居者や子供達が変わに思うからである。

「じゃあ我慢するわ。もう四日もお通じがないので、お腹がこんなにポンポンに張ってる

木刀で首を責める辻村氏（モデル、伊吹真佐子嬢）



彼女は軽く拒否したが、さして強くも云わなかった。ので、箕田氏は私に眼で合図して、彼女の後ろからイチジク浣腸を振って見せた。

今一度、後手に緊縛の浣腸ポーズをとらし、俯向けにして臀部を盛り上げさせた処で私は素早くイチジク浣腸を針で穴をあけ、尖端を湿らすとグット一気に浣腸した。

「浣腸してあげたから、暫くすると溜まっていた奴が全部出てしまうよ。少しお腹が痛くなるかも知れないがねー」「とうとう本当に入れてしまったのね。仕様のない人ね。あゝら本当——、少し下腹が

でしよう。少し苦しいの——」

下腹をさすって見せて、笑って云うと、彼女はそれでもあと少しの時間を我慢した。

「それなら丁度いゝや。これで浣腸してやろうか」

「いやだわ。だってお腹が痛くなるんでしょ？」

痛んで来た様だわ——。どうしましょう……」

「流石に顔を赤らめて、彼女は両手で顔を蔽った。」

「もう少しの辛抱だ。さ、早いとこ、早いとこ」

私達も少々慌て気味になって、後は一瀉千里で、残りの七八枚を簡単な縛り方の儘、責

めの極端なアクロバットで、急いで撮り終った。

我慢出来ぬ様に、性急に附眉毛をむしり、青黛と口紅を拭いただけで、彼女はスルスルワンピースをかぶると、飛ぶ様に階段を降りていった。

「やったねー。どんな気持ちだった？」

箕田氏も好気心に満ちた口調で聞いた。

「なーに、別段変わった事もなかったさ。いつもはあてがっているだけのを押えただけの話さ。だけどこのフィルム一枚に、実際に流暢しているシーンが一枚混ってあったとしても、恐らく写真を見た人は、流暢シーンのどれであるかは多分気がつくまいと思うよ。凹んだイチジクを握っているところまで観察する人は先ずあるまいからねー」

「グリセリンが腸内に入っていくのを、恐らく彼女は意識していながら、身動きすらしなかったんじゃないか。羽村京子式にやっただけ、彼女OKかも知れないね」

こんな話をしていると、

「あゝ、すっとしちやった。出たわよすっかり……。あら御免なさい。汚ない話しちゃって、ホホ……」

「よかったよ。じゃあ辻村さんに御礼を云っ

てもいゝ位だね」

箕田氏は愉快そうに大笑した。

これが伊吹さんを昨年最後に撮った時の、ラストシーンである。

その後、彼女とは逢っていない。ヌード撮影がシーズンオフに入ってしまったせいもあるが、彼女の言によれば、この一文の誌上に出る頃、結婚している筈であるが、さてどんなものであろうか……。願わくば、いゝ花嫁さんになってくれ給えー。或いは又ー。彼女が本年も相変わらず、本誌のグラビヤを賑わせば、伊吹真佐子さんは未だ結婚していないと考えてもよさそうであるー。

(この項終り)

絵と写真のアイデアを募集

本誌に発表する口絵に關してのサジ、マゾ、切腹、流暢等の内容や代理部の分譲写真、或はアルバム、画帖、等について、こういった構図やポーズ、又は趣向で作成してほしいといった御希望がございましたら、何卒御遠慮なく編集部宛御申越し下さい。口絵について特に画家に名差して御希望がありましたら転送いたします。

KK通信の旧号在庫(乞御申込)

本誌愛読者の機関誌として発行しておりますKK通信の旧号が左記の通り在庫しておりますので御入用の方は、直接発行所宛お申込み下さるようお願いいたします。尚、第十四号以前は全部品切ですので御諒承下さい。

◎KK通信◎ 第十五号より第二十三号まで各号在庫、一部送共二十円、六冊分送共百円(B6版十六頁)尚、KK通信は第二十三号までにて廃刊になっております。

◎御申込は、堺局区内、曙書房KK通信係へ

貴方の考案されたアイデアによって誌上を飾り、又は、分譲品中に加えたいと思います。アイデアは出来るだけ詳細の説明と共に、なるべく略図の添付をお願いいたします。但し、場合によっては文章だけでも結構です。

採用の分、並に優秀なる企画に對しましては、写真又は画稿を差し上げます。(企画係)